

曲水における功績も頗る大なるものがありました。

曲水は今日まで、水巴、碧雲居両主宰の死の困難を突破して現在五十八巻第五号（通巻六六六号）を発行し、大正昭和の俳壇に輝かしい足跡を残して参りました。このことは両主宰並びに長頸子君等先人の遺業のたまものでありますことは言うを俟ちません。われわれ曲水人はこの遺業を汚すことなく、水巴の俳句精神を基盤に、現代俳句として更に躍進を重ねて参る所存であることを長頸子君の御霊に御報告できる事を欣快に存じます。

ここに、文鸞院長頸志厚居士の御霊の御冥福と御遺族皆様の御繁栄を祈念して私の追悼のことばと致します。

昭和四十九年五月十九日

曲水社主宰 渡辺 桂子

代読 青木よしを（曲水社理事）

（50回忌法要 献句）

五〇ネンチマキノウタノアタラシキ ワタナベケイコ

生き残りきく友の忌の茶摘唄 よしを

子どもの日柱の疵も五十年 余 石

編集部注…作品は原文に忠実に旧かなづかいとしたが、

掲載誌からの転載の場合、旧字体の漢字は新字体に改めた。